

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年8月6日

【四半期会計期間】 第99期第1四半期(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

【会社名】 株式会社デンソー

【英訳名】 DENSO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 取締役社長 有馬 浩二

【本店の所在の場所】 愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地

【電話番号】 刈谷(0566)61-7910

【事務連絡者氏名】 経理部長 篠田 吉正

【最寄りの連絡場所】 愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地

【電話番号】 刈谷(0566)61-7910

【事務連絡者氏名】 経理部長 篠田 吉正

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄3丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第98期 第1四半期 連結累計期間	第99期 第1四半期 連結累計期間	第98期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年6月30日	自 2021年4月1日 至 2021年6月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上収益 (百万円)	765,098	1,356,866	4,936,725
営業利益又は損失 ( ) (百万円)	106,616	107,181	155,107
四半期(当期)利益 又は損失 ( ) (百万円)	94,068	96,271	148,095
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)利益又は損失 ( ) (百万円)	90,069	89,345	125,055
四半期(当期)包括利益 (百万円)	11,301	194,979	635,886
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	3,333,780	4,028,319	3,891,012
資産合計 (百万円)	6,078,585	6,948,788	6,767,684
基本的1株当たり四半期(当期) 利益又は損失 ( ) (円)	116.24	115.25	161.39
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益又は損失 ( ) (円)	-	-	-
親会社所有者帰属持分比率 (%)	54.84	57.97	57.49
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	32,074	190,000	437,235
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	209,490	68,049	395,903
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	534,701	64,173	238,657
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	955,662	950,504	897,395

- (注) 1. 国際会計基準(以下、「IFRS」)に基づいて連結財務諸表を作成しています。  
2. 要約四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。  
3. 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益又は損失( )については、希薄化効果のある株式が存在しないため記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、連結会社(当社及び国内外の連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間末日現在において連結会社が判断したものです。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

連結会社は、「デンソーグループ2030年長期方針」を策定し、「地球に、社会に、すべての人に、笑顔広がる未来を届けたい」というスローガンを定めています。また、この長期方針を実現するための道筋として、「デンソーグループ2025年長期構想」を策定し、「電動化」、「先進安全・自動運転」、「コネクティッド」、「非車載事業（F A /農業）」を注力分野に定め、事業活動を通じて、笑顔広がる社会づくりに貢献していきます。

環境においては、2035年のカーボンニュートラルを目標に、「モノづくり」「モビリティ製品」「エネルギー利用」の領域でCO<sub>2</sub>の削減と回収・再利用を進めていきます。また、交通事故や大気汚染、労働人口の減少などの社会課題にも取り組み、「交通事故なく自由な移動の実現」、「心安らく快適な空間を創出」、「人を支援し、人の可能性を広げる社会を構築」を活動の柱とし、技術や製品で社会に「安心」を提供するリーディングカンパニーを目指します。

F A：ファクトリー・オートメーション（生産ラインの機械化による自動化）

当第1四半期連結累計期間は、昨年、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ車両生産・販売が堅調に回復しました。一方で半導体不足によりカーメーカーの車両生産に影響があったものの、売上収益は1兆3,569億円（前年同四半期比5,918億円増、77.3%増）と増収になりました。営業利益は、車両の生産・販売回復による操業度差益や体質変革の効果による固定費の低減などにより、1,072億円（前年同四半期は1,066億円の営業損失）となりました。税引前四半期利益は、1,316億円（前年同四半期は922億円の税引前四半期損失）となりました。四半期利益は、963億円（前年同四半期は941億円の四半期損失）となりました。親会社の所有者に帰属する四半期利益については、893億円（前年同四半期は901億円の親会社の所有者に帰属する四半期損失）となりました。

セグメント別の業績については、車両の生産・販売の回復によりすべての地域で増収増益となりました。日本は生産・販売回復の他、トヨタ自動車株式会社向けの売上増加などにより、売上収益は8,734億円（前年同四半期比3,451億円増、65.3%増）となりました。また営業利益は582億円（前年同四半期は908億円の営業損失）となりました。

北米や欧州では、車両生産・販売が大きく回復し、半導体不足による減産影響はあったものの、北米地域での売上収益は2,984億円（前年同四半期比1,766億円増、145.0%増）、営業利益は73億円（前年同四半期は263億円の営業損失）となりました。欧州地域は、売上収益は1,529億円（前年同四半期比857億円増、127.6%増）、営業利益は33億円（前年同四半期は83億円の営業損失）となりました。

アジア地域は、主に中国以外の地域での販売回復が大きく、売上収益は3,646億円（前年同四半期比1,364億円増、59.8%増）、営業利益は338億円（前年同四半期比302億円増、859.1%増）と大幅増益となりました。

その他地域は、売上収益は170億円（前年同四半期比140億円増、477.1%増）、営業利益は32億円（前年同四半期比19億円増、144.9%増）となりました。

当第1四半期連結会計期間末の資産については、その他の金融資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ1,811億円増加し、6兆9,488億円となりました。

負債については、社債及び借入金増加等により、前連結会計年度末に比べ707億円増加し、2兆7,617億円となりました。

資本については、投資有価証券の評価時価の上昇等により、前連結会計年度末に比べ1,104億円増加し、4兆1,871億円となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

##### キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物（以下、「資金」）は、営業活動により1,900億円増加、投資活動により680億円減少、財務活動により642億円減少等の結果、当第1四半期連結会計期間末は前連結会計年度末と比べ531億円増加し、9,505億円となりました。

営業活動により得られた資金は、前年同四半期の321億円に対し、1,900億円となり、1,579億円増加しました。この増加は、前年四半期の税引前四半期損失に対し税引前四半期利益が2,239億円増加したことによるものです。

投資活動により使用した資金は、前年同四半期の2,095億円に対し、680億円となり、1,415億円減少しました。この減少は、前年四半期におけるトヨタ自動車株式会社から主要な電子部品事業を取得したことによる収支等が1,061億円減少したことによるものです。

財務活動により得られた又は使用した資金は、前年同四半期の5,347億円の資金の増加に対し、642億円の資金

の減少となり、5,989億円減少しました。この減少は、借入金の調達額が4,991億円減少したことによるものです。

当第1四半期連結累計期間における有形固定資産の取得額は、前年同四半期の1,110億円から30.3%減少し、774億円となりました。この減少は、止血施策の一環として投資案件の精査を強化したことによるものです。

#### 資本の財源及び資金の流動性について

資本の財源及び資金の流動性について、連結会社の運転資金及び設備投資資金は、主として自己資金により充当し、必要に応じて借入又は社債の発行等による資金調達を実施することを基本方針としています。

当第1四半期連結会計期間は、連結会社の運転資金及び設備投資資金について、主として自己資金及び借入・社債発行による資金を充当しました。

連結会社の資本的支出は、生産拡大対応、次期型化、新製品切替及び新製品開発のための研究開発投資を重点的に推進する予定であり、その財源は、上記基本方針に従ったものとする予定です。

連結会社は、その健全な財務状態、営業活動によるキャッシュ・フローを生み出す能力等により、連結会社の成長を維持するために将来必要な運転資金及び設備投資資金を調達することが可能と考えています。

#### (3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標

当社は売上収益及び営業利益を経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標として用いています。

#### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、連結会社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費は120,205百万円（資産計上分含む）です。

なお、当第1四半期連結累計期間において、連結会社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,500,000,000
計	1,500,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年8月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	787,944,951	787,944,951	東京、名古屋 各証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	787,944,951	787,944,951	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年4月1日～ 2021年6月30日	-	787,944,951	-	187,457	-	265,985

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2021年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

区分	2021年6月30日現在		
	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 13,156,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 774,482,700	7,744,827	-
単元未満株式	普通株式 305,951	-	-
発行済株式総数	787,944,951	-	-
総株主の議決権	-	7,744,827	-

(注) 完全議決権株式(その他)の株式数の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が、100株含まれていません。また、議決権の数の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれています。

【自己株式等】

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	2021年6月30日現在			
		自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社デンソー (自己株式)	愛知県刈谷市昭和町 1丁目1番地	13,044,000	-	13,044,000	1.66
伊藤精工株式会社	愛知県刈谷市野田町 場割100-1	83,200	-	83,200	0.01
株式会社ニッパ	静岡県磐田市川袋 1550	22,000	-	22,000	0.00
株式会社デンソーパーラー	愛知県岡崎市中島 中町4丁目3番地19	7,100	-	7,100	0.00
計	-	13,156,300	-	13,156,300	1.67

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の当社の所有株式数は12,580,302株(議決権の数125,803個)です。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下、「IAS第34号」）に基づいて作成しています。

なお、本報告書の要約四半期連結財務諸表の金額の表示は、百万円未満を四捨五入して記載しています。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		897,395	950,504
営業債権及びその他の債権		1,028,821	966,256
棚卸資産	5, 6	726,159	783,344
その他の金融資産		15,527	15,901
その他		121,834	121,788
流動資産合計		2,789,736	2,837,793
非流動資産			
有形固定資産	5, 7	1,875,763	1,889,737
使用権資産		47,834	47,584
無形資産	5	143,960	143,952
その他の金融資産		1,681,582	1,804,135
持分法で会計処理されている投資		106,734	106,072
退職給付に係る資産		63,446	62,930
繰延税金資産	5	36,951	35,215
その他		21,678	21,370
非流動資産合計		3,977,948	4,110,995
資産合計		6,767,684	6,948,788



(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債及び資本			
流動負債			
社債及び借入金		98,348	160,501
営業債務及びその他の債務		1,014,406	1,039,316
その他の金融負債		48,647	45,167
未払法人所得税		15,414	15,986
引当金	16	248,517	216,065
その他		73,327	87,526
流動負債合計		1,498,659	1,564,561
非流動負債			
社債及び借入金		755,874	720,608
その他の金融負債		36,153	36,278
退職給付に係る負債		282,332	284,243
引当金		1,369	1,598
繰延税金負債		102,095	139,584
その他		14,485	14,805
非流動負債合計		1,192,308	1,197,116
負債合計		2,690,967	2,761,677
資本			
資本金		187,457	187,457
資本剰余金		272,517	273,796
自己株式		56,830	54,812
その他の資本の構成要素		691,417	785,274
利益剰余金		2,796,451	2,836,604
親会社の所有者に帰属する持分		3,891,012	4,028,319
非支配持分		185,705	158,792
資本合計		4,076,717	4,187,111
負債及び資本合計		6,767,684	6,948,788

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上収益	4, 9	765,098	1,356,866
売上原価	6, 7	777,232	1,145,316
売上総利益又は損失( )		12,134	211,550
販売費及び一般管理費	7, 11	97,339	111,654
その他の収益	5, 10	6,798	14,363
その他の費用	5, 11, 16	3,941	7,078
営業利益又は損失( )	4	106,616	107,181
金融収益	12	20,007	20,035
金融費用	12	1,957	1,490
為替差損益		2,182	2,675
持分法による投資損益		1,499	3,207
税引前四半期利益又は損失( )		92,247	131,608
法人所得税費用		1,821	35,337
四半期利益又は損失( )		94,068	96,271
四半期利益又は損失( )の帰属			
親会社の所有者に帰属		90,069	89,345
非支配持分に帰属		3,999	6,926

(単位：円)

1株当たり四半期利益又は損失( )			
基本的1株当たり四半期利益又は損失( )	13	116.24	115.25
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失( )	13	-	-

【要約四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期利益又は損失( )		94,068	96,271
その他の包括利益			
純損益に振り替えられない項目			
FVTOCIに指定した資本性金融商品への投資による損益	14	75,791	90,083
確定給付制度の再測定		136	0
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分		6	6
合計		75,933	90,089
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		7,874	6,687
キャッシュ・フロー・ヘッジ損益		107	13
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分		1,147	1,945
合計		6,834	8,619
その他の包括利益合計		82,767	98,708
四半期包括利益		11,301	194,979
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者に帰属		10,833	188,355
非支配持分に帰属		468	6,624

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

(単位：百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分				
		資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
					FVTOCIに指定した資本性金融商品への投資による損益	確定給付制度の再測定
2020年4月1日残高		187,457	272,375	56,815	273,576	-
四半期利益又は損失( )		-	-	-	-	-
その他の包括利益		-	-	-	75,741	136
四半期包括利益		-	-	-	75,741	136
自己株式の取得		-	-	1	-	-
自己株式の処分		-	0	0	-	-
配当金	8	-	-	-	-	-
子会社に対する所有者持分の変動		-	4	-	-	-
利益剰余金への振替		-	-	-	1,408	136
利益剰余金から資本剰余金への振替		-	0	-	-	-
その他の増減		-	7	-	-	-
所有者との取引額合計		-	11	1	1,408	136
2020年6月30日残高		187,457	272,386	56,816	347,909	-

2021年4月1日残高		187,457	272,517	56,830	664,905	-
四半期利益又は損失( )		-	-	-	-	-
その他の包括利益		-	-	-	89,882	0
四半期包括利益		-	-	-	89,882	0
自己株式の取得		-	-	7	-	-
自己株式の処分		-	1,280	2,025	-	-
配当金	8	-	-	-	-	-
子会社に対する所有者持分の変動		-	0	-	-	-
利益剰余金への振替		-	-	-	5,153	0
利益剰余金から資本剰余金への振替		-	-	-	-	-
その他の増減		-	1	-	-	-
所有者との取引額合計		-	1,279	2,018	5,153	0
2021年6月30日残高		187,457	273,796	54,812	749,634	-

(単位：百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分				非支配持分	資本合計	
		その他の資本の構成要素			利益剰余金			合計
		在外営業 活動体の 換算差額	キャッシュ・ フロー・ ヘッジ損益	合計				
2020年4月1日残高		46,913	10	226,653	2,767,466	3,397,136	161,733	3,558,869
四半期利益又は損失( )		-	-	-	90,069	90,069	3,999	94,068
その他の包括利益		3,252	107	79,236	-	79,236	3,531	82,767
四半期包括利益		3,252	107	79,236	90,069	10,833	468	11,301
自己株式の取得		-	-	-	-	1	-	1
自己株式の処分		-	-	-	-	0	-	0
配当金	8	-	-	-	54,243	54,243	4,305	58,548
子会社に対する所有者持分の変動		-	-	-	-	4	115	119
利益剰余金への振替		-	-	1,544	1,544	-	-	-
利益剰余金から資本剰余金への振替		-	-	-	0	-	-	-
その他の増減		-	-	-	1,710	1,717	0	1,717
所有者との取引額合計		-	-	1,544	50,989	52,523	4,190	56,713
2020年6月30日残高		43,661	97	304,345	2,626,408	3,333,780	157,075	3,490,855

2021年4月1日残高		26,472	40	691,417	2,796,451	3,891,012	185,705	4,076,717
四半期利益又は損失( )		-	-	-	89,345	89,345	6,926	96,271
その他の包括利益		9,141	13	99,010	-	99,010	302	98,708
四半期包括利益		9,141	13	99,010	89,345	188,355	6,624	194,979
自己株式の取得		-	-	-	-	7	-	7
自己株式の処分		-	-	-	-	3,305	-	3,305
配当金	8	-	-	-	54,243	54,243	33,529	87,772
子会社に対する所有者持分の変動		-	-	-	-	0	6	6
利益剰余金への振替		-	-	5,153	5,153	-	-	-
利益剰余金から資本剰余金への振替		-	-	-	-	-	-	-
その他の増減		-	-	-	102	103	2	105
所有者との取引額合計		-	-	5,153	49,192	51,048	33,537	84,585
2021年6月30日残高		35,613	27	785,274	2,836,604	4,028,319	158,792	4,187,111

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益又は損失( )		92,247	131,608
減価償却費		81,380	86,797
退職給付に係る負債の増減額( は減少)		1,497	1,269
退職給付に係る資産の増減額( は増加)		1,380	1,075
受取利息及び受取配当金		18,086	19,357
支払利息		1,172	995
為替差損益( は益)		209	3,562
持分法による投資損益( は益)		1,499	3,207
有形固定資産の除売却損益( は益)		1,285	370
売上債権の増減額( は増加)		174,751	68,975
棚卸資産の増減額( は増加)		49,131	51,787
仕入債務の増減額( は減少)		98,024	15,462
引当金の増減額( は減少)		5,369	32,339
その他		43,180	29,627
小計		43,496	194,262
利息の受取額		1,254	1,281
配当金の受取額		16,809	18,859
利息の支払額		1,291	868
法人所得税の支払額		28,194	23,534
営業活動によるキャッシュ・フロー		32,074	190,000
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の純増減額( は増加)		10,248	110
有形固定資産の取得による支出		111,010	77,393
有形固定資産の売却による収入		6,079	5,165
無形資産の取得による支出		12,515	6,565
資本性金融商品の取得による支出		152	151
負債性金融商品の取得による支出		106	110
資本性金融商品の売却による収入		1,836	8,148
負債性金融商品の売却又は償還による収入		127	178
子会社又はその他の事業の取得による収支	5	105,140	960
その他		1,143	1,609
投資活動によるキャッシュ・フロー		209,490	68,049
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額( は減少)		105,189	29,692
借入金による調達額		500,841	1,752
借入金の返済による支出		1,799	942
リース負債の返済による支出		12,797	6,405
配当金の支払額	8	54,243	54,243
非支配持分への配当金の支払額		4,305	33,447
自己株式の取得による支出		1	7
その他		1,816	573
財務活動によるキャッシュ・フロー		534,701	64,173
現金及び現金同等物に係る換算差額		561	4,669
現金及び現金同等物の増減額( は減少)		357,846	53,109
現金及び現金同等物の期首残高		597,816	897,395
現金及び現金同等物の四半期末残高		955,662	950,504

## 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

株式会社デンソー（以下、「当社」）は、日本に所在する株式会社です。当社及び国内外の連結子会社（以下、まとめて「連結会社」）は、「日本」、「北米」、「欧州」、「アジア」、「その他」の各セグメントで、主に自動車部品におけるサーマルシステム、パワトレインシステム、モビリティシステム、エレクトリフィケーションシステム、センシングシステム&セミコンダクタ、及び非車載事業の領域において、開発、製造及び販売を行っています。

### 2. 作成の基礎

#### (1) IFRSに準拠している旨

本要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表規則」第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件をすべて満たすことから、同規則第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しています。本要約四半期連結財務諸表は、連結会計年度の連結財務諸表で要求されるすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。当社の当第1四半期の要約四半期連結財務諸表は、2021年8月6日に取締役社長 有馬浩二によって承認されています。

#### (2) 重要な会計上の判断、見積り及び仮定

IFRSに準拠した連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行っています。

見積り及びその基礎となる仮定は、関連性があると思われる過去の経験及びその他の要素に基づいていますが、実績はこれら見積りと異なる場合があるため、継続的に見直しています。会計上の見積りの修正は、修正した期間にのみ影響を及ぼす場合は見積りが修正された期間に認識され、修正した期間及び将来の期間の双方に影響を及ぼす場合には当該期間及び将来の期間で認識されます。

本要約四半期連結財務諸表で認識する金額に重要な影響を与える見積り及び仮定は、新型コロナウイルス感染症拡大に係るものも含め、前連結会計年度から重要な変更はありません。

### 3. 重要な会計方針

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

なお、当第1四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積平均年次実効税率を基に算定しています。

#### 4. 事業セグメント

##### (1) 一般情報

報告セグメントの識別方法、各報告セグメントが営む事業の内容及びセグメント利益の測定基準については、当第1四半期連結累計期間において重要な変更はありません。

##### (2) セグメントごとの売上収益、利益又は損失に関する情報

前第1四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	消去又は 全社	連結
	日本	北米	欧州	アジア	計			
売上収益								
外部顧客への 売上収益	382,832	117,153	62,831	199,383	762,199	2,899	-	765,098
セグメント間の内部 売上収益	145,481	4,662	4,345	28,825	183,313	45	183,358	-
計	528,313	121,815	67,176	228,208	945,512	2,944	183,358	765,098
セグメント利益又は損失	90,758	26,317	8,250	3,519	121,806	1,311	13,879	106,616
金融収益								20,007
金融費用								1,957
為替差損益								2,182
持分法による投資損益								1,499
税引前四半期損失( )								92,247

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、南米等の現地法人の事業活動を含んでいます。

当第1四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	消去又は 全社	連結
	日本	北米	欧州	アジア	計			
売上収益								
外部顧客への 売上収益	595,790	294,234	138,361	311,810	1,340,195	16,671	-	1,356,866
セグメント間の内部 売上収益	277,638	4,175	14,502	52,788	349,103	319	349,422	-
計	873,428	298,409	152,863	364,598	1,689,298	16,990	349,422	1,356,866
セグメント利益	58,163	7,337	3,284	33,751	102,535	3,210	1,436	107,181
金融収益								20,035
金融費用								1,490
為替差損益								2,675
持分法による投資損益								3,207
税引前四半期利益								131,608

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、南米等の現地法人の事業活動を含んでいます。



## 5. 企業結合

前第1四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）

当社は2020年4月1日にトヨタ自動車株式会社より、主要な電子部品事業を取得し、新たにデンソー広瀬製作所として事業を開始しました。

### (1) 企業結合の概要

#### 電子部品生産事業の集約

- ・トヨタ自動車株式会社の広瀬工場における電子部品の生産を当社へ集約。
- ・該当する広瀬工場の土地、生産インフラ（建屋、設備、ソフトウェア等）等をトヨタ自動車株式会社より譲り受け。

#### 電子部品開発機能の集約

- ・電子部品の開発機能を当社へ集約。
- ・該当する図面、開発設備等をトヨタ自動車株式会社より譲り受け。

### (2) 企業結合の理由

電子部品事業の分野で専門性の高い当社に電子部品事業を集約することで、スピーディかつ競争力のある開発・生産体制を構築します。また、グループ内の重複業務を解消することにより発生したリソースを、これからのモビリティの価値向上に向けた新たな領域にシフトする等、リソースの最大活用を図りグループ全体の競争力を向上してまいります。

### (3) 取得事業の概要

事業内容 電子部品の開発及び生産に係る事業

### (4) 支配獲得日

2020年4月1日

### (5) 取得対価及びその内訳

(単位：百万円)

	金額
現金による取得対価	105,258
取得対価の合計	105,258

### (6) 支配獲得日における資産の公正価値及びのれん

(単位：百万円)

	金額
取得対価合計（A）	105,258
資産内訳	
棚卸資産	9,346
有形固定資産	53,143
無形資産	32,380
繰延税金資産	3,124
資産合計（B）	97,993
のれん(注)（A - B）	7,265

#### (注) のれん

のれんは、今後の事業展開や当社と取得事業とのシナジーにより期待される将来の超過収益力を反映したものです。税務上損金算入可能と見込まれるのれんの金額は発生していません。

### (7) 主要な取得関連コストの内容及び金額

(単位：百万円)

	金額
アドバイザー費用等	58

### (8) 取得した事業の売上収益

要約四半期連結損益計算書に認識している、支配獲得日以降における取得した事業の売上収益は17,252百万円です。

当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

当社は2021年4月1日よりジェコー株式会社を新たに当社の連結子会社としています。

(1) 企業結合の概要

当社の関連会社として主に表示系製品の製造販売事業を行っていたジェコー株式会社は、2021年4月1日に実施した株式交換により、同日付で新たに当社の連結子会社となりました。その結果、当社の保有するジェコー株式会社の議決権比率は41.89%(2021年3月31日時点)から100%(2021年4月1日時点)となり、当社は議決権の全てを保有しています。

(2) 企業結合の理由

当社グループとして競争優位性を維持強化し、持続的な成長を実現するため、経営資源の最適化及び一元管理、相互活用できる体制を整え、機動的な経営を推進することを目的としています。

(3) 被取得企業の概要

名称 ジェコー株式会社  
事業内容 自動車時計、自動車計器類、車載用モータ類及び応用製品の製造販売

(4) 支配獲得日

2021年4月1日

(5) 取得対価及びその内訳

(単位:百万円)

	金額
株式交換において交付した当社株式の公正価値	3,200
支配獲得時に既に保有していたジェコー株式会社に対する資本持分の公正価値	2,307
取得対価の合計	5,507

当社が支配獲得時に既に保有していたジェコー株式会社に対する資本持分を支配獲得日の公正価値で再測定した結果、2,752百万円の損失を認識しています。この損失は、要約四半期連結損益計算書上、「その他の費用」に計上されています。

また、当該企業結合に係るアドバイザー費用等の取得関連コスト82百万円(前連結会計年度74百万円、当連結会計年度8百万円)を「販売費及び一般管理費」に計上しています。

(6) 支配獲得日における資産・負債の公正価値及びのれん

(単位:百万円)

	金額
取得対価合計(A)	5,507
資産内訳	
営業債権及びその他の債権	6,407
その他の流動資産	3,594
有形固定資産	7,844
その他の非流動資産	2,200
資産合計	20,045
負債内訳	
流動負債	4,359
非流動負債	1,956
負債合計	6,315
純資産(B)	13,730
のれん(注)(A-B)	8,223

有形固定資産を含む取得対価の配分が完了していないため、非流動資産の公正価値は、取得日時点で認識された暫定的な金額であり、測定期間中(取得日から1年間)に修正が行われる可能性があります。

(注) のれん

本株式交換により生じた負ののれん8,223百万円は、取得した純資産の公正価値が取得対価を上回っていたため発生しています。この利益は、要約四半期連結損益計算書上、「その他の収益」に計上されています。

(7) 子会社の支配獲得による収入

(単位：百万円)

	金額
支配獲得時に被取得企業が保有していた現金及び現金同等物	960
子会社の支配獲得による現金受入額	960

(8) 被取得企業の売上収益及び当期利益

要約四半期連結損益計算書に認識している、支配獲得日以降における内部取引消去前の被取得企業の売上収益は6,809百万円、当期利益は106百万円です。

6. 棚卸資産

「棚卸資産」の正味実現可能価額までの評価減の金額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
棚卸資産の評価減	14,612	13,630

7. 有形固定資産

(1) 「有形固定資産」の帳簿価額の増減は以下のとおりです。

(単位：百万円)

2021年4月1日残高	1,875,763
取得	88,897
企業結合(注)	7,844
減価償却費	83,392
減損損失	-
処分	4,686
外貨換算差額	6,857
その他	1,546
2021年6月30日残高	1,889,737

(注) 企業結合による増加は、ジェコー株式会社の取得によるものです(注記5「企業結合」参照)。

(2) コミットメント

有形固定資産の取得に関する契約上のコミットメントは以下のとおりです。

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
有形固定資産の取得に関するコミットメント	121,349

8. 配当

配当金の支払額は以下のとおりです。

(1) 前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

決議	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2020年4月30日 取締役会	54,243	70

(2) 当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

決議	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2021年4月28日 取締役会	54,243	70

## 9. 売上収益

## 収益の分解

連結会社は先進的な自動車技術、システム・製品を提供する、グローバルな自動車部品メーカーであり、自動車メーカー向けの部品供給事業を中心にビジネスを行っています。市販・非車載事業においては、主に、エンドユーザ向けに自動車補修用部品等の販売を行っています。これらのビジネスから生じる収益は顧客との契約に従って計上し、売上収益として表示しています。

得意先別に分解した売上収益は以下のとおりです。

前第1四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）

(単位：百万円)

トヨタグループ向け	418,701
その他	230,081
自動車メーカー向け部品供給事業計	648,782
市販・非車載事業	116,316
合計	765,098

(注) グループ会社間の内部取引控除後の金額を表示しています。

トヨタグループ向け売上収益について、セグメント別に分解した売上収益はそれぞれ、日本は266,032百万円、北米は53,622百万円、欧州は8,688百万円、アジアは89,403百万円、その他は956百万円です。

当第1四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）

(単位：百万円)

トヨタグループ向け	718,668
その他	471,371
自動車メーカー向け部品供給事業計	1,190,039
市販・非車載事業	166,827
合計	1,356,866

(注) グループ会社間の内部取引控除後の金額を表示しています。

トヨタグループ向け売上収益について、セグメント別に分解した売上収益はそれぞれ、日本は411,097百万円、北米は157,044百万円、欧州は20,507百万円、アジアは123,286百万円、その他は6,734百万円です。

製品別に分解した売上収益は以下のとおりです。

なお、2021年1月1日付の組織変更に伴い、前連結会計年度より、事業グループの名称を「モビリティエレクトロニクス」から「モビリティシステム」に、2021年4月1日付の組織変更に伴い、当第1四半期連結会計期間より、「センサ&セミコンダクタ」を「センシングシステム&セミコンダクタ」に変更しています。また、当第1四半期連結会計期間より、従来「サーマルシステム」としていた一部製品を「非車載事業分野」に、従来「その他」としていた一部製品を「モビリティシステム」に区分を変更しております。当該変更に伴い、前第1四半期連結累計期間の売上収益を、変更後の区分に組み替えて表示しています。

前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

[組織変更前の区分]

(単位:百万円)

サーマルシステム	173,968
パワトレインシステム	169,078
モビリティエレクトロニクス	163,829
エレクトリフィケーションシステム	143,622
センサ&セミコンダクタ	22,900
その他	56,480
自動車分野計	729,877
非車載事業分野	35,221
合計	765,098

(注) グループ会社間の内部取引控除後の金額を表示しています。

[組織変更後の区分]

(単位:百万円)

サーマルシステム	173,008
パワトレインシステム	169,078
モビリティシステム	194,958
エレクトリフィケーションシステム	143,622
センシングシステム&セミコンダクタ	22,900
その他	25,351
自動車分野計	728,917
非車載事業分野	36,181
合計	765,098

(注) グループ会社間の内部取引控除後の金額を表示しています。

当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位:百万円)

サーマルシステム	317,298
パワトレインシステム	308,970
モビリティシステム	333,438
エレクトリフィケーションシステム	268,380
センシングシステム&セミコンダクタ	41,391
その他	36,756
自動車分野計	1,306,233
非車載事業分野	50,633
合計	1,356,866

(注) グループ会社間の内部取引控除後の金額を表示しています。

10. その他の収益

「その他の収益」の内訳は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
固定資産賃貸料	684	616
固定資産売却益	359	2,916
その他(注)	5,755	10,831
合計	6,798	14,363

(注)前第1四半期連結累計期間の「その他」には、一部海外グループ会社における付加価値税の還付額2,691百万円が含まれています。

当第1四半期連結累計期間の「その他」には、ジェコー株式会社の株式交換により生じた負ののれん相当額8,223百万円が含まれています(注記5「企業結合」参照)。

11. 販売費及び一般管理費及びその他の費用

「販売費及び一般管理費」の内訳は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
荷造運搬費	8,210	11,665
従業員給付費用	48,111	49,373
製品保証引当金繰入(は戻入)	2,694	2,176
減価償却費	7,818	8,934
福利厚生費	7,168	7,773
その他	28,726	31,733
合計	97,339	111,654

「その他の費用」の内訳は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
固定資産除売却損	1,644	2,546
その他(注)	2,297	4,532
合計	3,941	7,078

(注)当第1四半期連結累計期間の「その他」には、当社が支配獲得時に既に保有していたジェコー株式会社に対する資本持分を支配獲得日の公正価値で再測定した結果による損失2,752百万円が含まれています(注記5「企業結合」参照)。

12. 金融商品に係る収益及び費用

「金融収益」の内訳は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
受取利息		
償却原価で測定する金融資産(預金等)	1,826	1,240
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産 (金利デリバティブ)	52	-
受取配当金		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	16,208	18,117
その他	1,921	678
合計	20,007	20,035

「金融費用」の内訳は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
支払利息及び割引料		
償却原価で測定する金融負債(社債・借入金等)	1,172	974
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債 (金利デリバティブ)	-	21
確定給付制度の純利息	387	382
その他	398	113
合計	1,957	1,490

13. 1株当たり四半期利益

(1) 基本的1株当たり四半期利益又は損失の算定上の基礎

親会社の所有者に帰属する四半期利益又は損失( )

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益又は損失( )	90,069	89,345

普通株式の期中平均株式数

(単位：千株)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
普通株式の期中平均株式数	774,870	775,245

(2) 希薄化後1株当たり四半期利益の算定上の基礎

希薄化後1株当たり四半期利益については、希薄化効果のある株式が存在しないため記載していません。

#### 14. 金融商品

##### 金融商品の公正価値

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、レベル1からレベル3までを以下のように分類しています。

レベル1：活発な市場における相場価格により測定された公正価値

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：観察可能な市場データに基づかないインプットを含む、評価技法から算出された公正価値

公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、各四半期の期首時点で発生したものと認識しています。

なお、2020年6月30日に終了した3ヵ月間及び2021年6月30日に終了した3ヵ月間において、レベル1とレベル2の間における振替はありません。

##### (1) 償却原価で測定する金融商品

償却原価で測定する金融商品の帳簿価額と公正価値ヒエラルキーは、以下のとおりです。

前連結会計年度(2021年3月31日)

(単位：百万円)

	帳簿価額	公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産					
債券等	226	224	-	-	224
金融負債					
長期借入金(注)	553,151	-	-	552,463	552,463
社債(注)	250,001	250,367	-	-	250,367

(注) 1年内返済及び償還予定の残高を含んでいます。

当第1四半期連結会計期間(2021年6月30日)

(単位：百万円)

	帳簿価額	公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産					
債券等	324	326	-	-	326
金融負債					
長期借入金(注)	552,879	-	-	552,867	552,867
社債(注)	250,001	250,549	-	-	250,549

(注) 1年内返済及び償還予定の残高を含んでいます。

償却原価で測定する短期金融資産、短期金融負債については、公正価値は帳簿価額と近似しているため、注記を省略しています。

長期借入金の公正価値は、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しています。



- (2) 経常的に公正価値で測定する金融資産及び金融負債の公正価値  
公正価値で測定する金融商品の公正価値ヒエラルキーは、以下のとおりです。

前連結会計年度（2021年3月31日）

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
デリバティブ資産	-	3,575	-	3,575
株式等				
上場株式	1,504,392	-	-	1,504,392
非上場株式	-	-	155,533	155,533
その他の持分証券	-	-	3,090	3,090
合計	1,504,392	3,575	158,623	1,666,590
デリバティブ負債	-	6,646	-	6,646
合計	-	6,646	-	6,646

当第1四半期連結会計期間（2021年6月30日）

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
デリバティブ資産	-	3,773	-	3,773
株式等				
上場株式	1,610,000	-	-	1,610,000
非上場株式	-	-	171,643	171,643
その他の持分証券	-	-	3,511	3,511
合計	1,610,000	3,773	175,154	1,788,927
デリバティブ負債	-	3,597	-	3,597
合計	-	3,597	-	3,597

デリバティブは主に為替予約、金利スワップ、金利通貨スワップに係る取引です。

為替予約の公正価値は、先物為替相場等に基づき算定しています。金利スワップ、金利通貨スワップの公正価値は、取引先金融機関等から提示された金利等観察可能な市場データに基づき算定しています。

非上場株式、その他の持分証券の公正価値測定においては、特定の状況に応じて最も適切な方法を選択しています。評価技法は、ディスカウント・キャッシュ・フロー法、又は、必要に応じてPBRによる時価修正等を加えた修正時価純資産方式等を使用することにより、算出しています。

非上場株式、その他の持分証券の公正価値測定で用いている重要な観察不能なインプットである非流動性ディスカウントは、30%で算定しています。

レベル3に分類された金融商品の増減は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

2021年4月1日残高	158,623
利得及び損失合計	
その他の包括利益（注）	16,396
購入	150
除売却	15
2021年6月30日残高	175,154

（注）その他の包括利益に含まれている利得及び損失は、決算日時点のその他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に関するものです。これらの損益は要約四半期連結包括利益計算書上「FVTOCIに指定した資本性金融商品への投資による損益」に含まれています。

15. 関連当事者取引

前第1四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）

（単位：百万円）

種類	会社等の名称又は氏名	取引内容	取引金額
重要な影響力を有する企業	トヨタグループ	各種自動車部品の販売	418,701
		各種自動車部品の購入	10,437

当第1四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）

（単位：百万円）

種類	会社等の名称又は氏名	取引内容	取引金額
重要な影響力を有する企業	トヨタグループ	各種自動車部品の販売	718,668
		各種自動車部品の購入	14,685

16. 偶発事象

当第1四半期連結会計期間末における偶発債務の内容は以下のとおりです。

独占禁止法関連

(1) 国及び競争法当局による調査

一部の国において当局による調査に対応しています。

(2) 民事訴訟

特定の自動車部品の過去の取引に関する独占禁止法違反の疑いについて、米国において一部の州の法務長官が提起した損害賠償を求める複数の訴訟で当社及び一部の子会社が被告の1社となっており、また、ドイツにおいて顧客1社が提起した訴訟で当社子会社が被告の1社となっています。これらの訴訟は関連国・州の民事訴訟規則に則って手続が進行しますが、当社はどの段階でも原告側と和解交渉を開始し、和解することが可能です。

(3) 個別の和解交渉

当社は、特定の自動車部品の過去の取引に関する独占禁止法違反の疑いに関連して、主要顧客（自動車メーカー）との間で個別に交渉を行っています。

当社は、上記事象のいくつかについて、支出の可能性のある金額を見積ったうえ、引当金を計上しており、これに関する費用は、「その他の費用」に含めています（注記11「販売費及び一般管理費及びその他の費用」参照）。

なお、IAS第37号「引当金、偶発負債及び偶発資産」に従い、当社の立場が不利になる可能性があるため、これらの係争の全般的な内容を開示していません。

## 17. 後発事象

連結会社は、後発事象を2021年8月6日まで評価しています。

### 自己株式の取得

当社は、2021年7月30日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議しました。

#### (1) 自己株式の取得を行う理由

資本コストを意識した株主還元及び効率性と安全性のバランスがとれた資本構成の実現を図るため。

#### (2) 取得に係る事項の内容

取得対象株式の種類	当社普通株式
取得しうる株式の総数	1,200万株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する上限割合1.55%)	
株式の取得価格の総額	1,000億円(上限)
取得期間	2021年8月2日～2022年1月31日
取得方法	東京証券取引所における市場買付

## 2 【その他】

2021年4月28日開催の取締役会において、期末配当に関し、次のとおり決議しました。

- a. 期末配当による配当金の総額 54,243百万円
- b. 1株当たりの金額 70円00銭
- c. 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2021年5月25日

(注) 2021年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年8月6日

株式会社デンソー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
名古屋事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西 松 真 人 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 後 藤 泰 彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 近 藤 巨 樹 印

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社デンソーの2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、株式会社デンソー及び連結子会社の2021年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が

認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。